

# 学生ら実習成果を報告

## 道教育大釧路校へき地校体験で

北海道教育大学釧路校の学生が、道内の小規模校で行った「へき地校体験実習」の報告会が11日、同校内で開かれ、学生らが実習で学んだことなどを報告した。同実習は2007年度、へき地・小規模校教育の研究に力を入れる釧路校など同大学の3校で制度化された。参加する学生は1、2

週間にわたってへき地校に向き、教員の手伝いや実際の授業を行うほか、地域行事などにも参加する。今年度は86人の学生が8〜11月にかけて、釧路、根室、十勝管内の小中36校で実習を体験した。

この日は、各校に2週間滞在した3、4年生36人が学生や教諭、実習協力校の



関係者を前に、へき地校のメリットやデメリット、実習内容などについて、写真や動画をスクリーンに映して紹介した。

このうち、白糠町立茶路

実習内容について発表する学生ら

小中学校に向いた、3年の川口桃叶さんと伊達崎凛さんは「地域について考える授業などを展開しており、子供たちが白糠町の魅力を理解している」と説明。「異学年の子供同士が仲良く、地域とのつながりの深さも感じられた。非常に興味深い実習だった」と振り返った。

(森崎博史)